

て ま よう がい 手 間 要 害

南部町手間の標高 300mの手間山山頂から尾根にかけて、複数の郭くるわが造られた中世の代表的な山城やましろ跡あとです。

発掘調査によって 16 世紀後半の遺物が発見されています。

城主は日野氏と伝えられていますが、国境にあるため永禄年間えいろくねんかんには尼子あまごと毛利もうりの争奪戦そうだつせんが行われた伝えられます。

天正 12 年 (1582) 年に毛利方てんしょうにより落城しました。



手間要害遠望